

3章 総合問題3

問題

【1】

ポイント

神戸大学の前期試験より出題。(1)の会話文の空所補充問題は、選択肢にダミーが含まれていないため比較的容易に解くことができる。空所の外にあるパンクチュエーション(/ ? ! などの句読点)も解答の手がかりになる。ただし、1つの選択肢を誤ると自動的に複数の誤りが確定してしまうので、細心の注意が必要である。

解答

- (1) ① b ② c ③ d ④ e ⑤ a
(2) ① d ② c
(3) ステッシン先生の奥さんが意識を取り戻すことなく亡くなったこと。
(4) 「全訳」の下線部㉔を参照。

解説

- (1) ① ステッシン先生がレッスンの終わりに筆者に言葉をかけている場面。空所の直後に「さもないと、何も言うことがなくなってしまうから」という発言が続いていることがヒントになる。‘命令文 + or …’ (～しないと…になる) という形になる **b** 「アーロン、あまりうまく弾きすぎないでくれ。」が適切。「あまり上手に弾かれると、レッスンで教えることがなくなってしまう」とステッシン先生がユーモアを交えて言っているのである。
- ② ステッシン先生の奥さんのナンシーに学校の構内で会った場面。空所の直後の文に「彼女の思いやりのある言葉に感激した」とあるので、ほめ言葉をかけられたことがわかる。ほめ言葉になっているのは、**d** と **e** だが、**e** は感嘆文になっているので、それに続く句読点はピリオドではなく感嘆符 (!) になるはずだから、ここでは不適當。また、内容的にも、第3段落冒頭で主人公がベートーベンのソナタを初めて演奏したことが述べられ、その数日後 (A few days later) の出来事であることを考えると、**d** の「先日あなたが弾いたベートーベンは素晴らしかった」という発言の方がつながりとして自然。したがって正解は **d** である。
- ③ 筆者が友人たちと食堂に座っている時に誰かが何かを伝えている場面。直後の文に she とあるので、これに対応する名詞が含まれている選択肢を探すと、**c** 「ステッシン先生の奥さんが倒れた」が正解だと推測できる。なお、pass out は「気絶する；倒れる」、pass away は「亡くなる」という意味。ナンシーが倒れたと聞いたので、その時は暑さで倒れたのだと思っていたが、実際には違った、という文脈である。
- ④ 筆者が演奏を終えた時にステッシン先生が近づいてきて言葉をかけている場面。空所の直前に、先生が「満面の笑みを浮かべていた」とあるので、何かよいことを伝える発言のはず。よいことを伝える内容になっているのは **d** と **e** だが、この場

面で **d** を入れると、急に何日も前の演奏をほめることになり不自然。よって、**e** の「素晴らしい演奏だったよ」が入るとわかる。空所の後に感嘆符があることもヒントになる。

① 先生が筆者を抱きしめた後の場面。 **a** dedication は第9段落第1文の dedicate my performance to the memory of Mrs. Stessin (私の演奏をステッシン先生の奥さんに捧げる) という部分に対応している。したがって、「妻に演奏を捧げてくれてありがとう」という意味の **a** が正解。And が入っているので、何かその前に別の言葉をかけているはずなので、それが①となる。

(2) ① 下線部は「どんな詳細も彼の目を逃れて通り過ぎることはない」という意味。get by ~ で「～の目を逃れて通り過ぎる」の意である。この文には 'so ~ that ... 構文' が使われていて、「頭脳明晰」だから「詳細を見落とさない」というような意味になっていると推測できるだろう。これに続く文に先生が細部をチェックしていることが述べられていることから、この解釈で間違いないと確認できる。したがって正解は **d** 「彼は何も見落とさない」になる。その他の選択肢の意味は **a** 「彼は何でもできる」、**b** 「彼はすべてを忘れてしまう」、**c** 「彼は何にでも怒る」である。

② 直前の文に、先生がニューヨークへ戻ってしまうのではないかとという筆者の予測が述べられている。これを受けた下線部の more wrong の後ろには than this などの省略があり、比較級になっている。また、'could have + 過去分詞' と仮定法が使われた文になっており、仮定条件も省略されている。「もし間違えようとしても、これ以上の間違いはできなかつただろう。」という意味になることから、「まったく間違っていた。」という意を表す。したがって、正解は **c** である。その他の選択肢の意味は **a** 「それが間違いだとは信じられなかつた。」、**b** 「私はまったく間違っていなかつた。」、**d** 「私はその点だけ間違っていた。」である。

Ex. "How was your trip to Hawaii?" — "Couldn't have been better."

(「ハワイ旅行、どうだった？」 「最高だったよ。」)

(3) 下線部の直後に「2人の友達がその夜遅くに伝えてくれた」とあるが、これは the news の内容ではないので注意する。この that は「…という～」という意味の「同格」を表す接続詞ではなく、the news を先行詞とする目的格の関係代名詞である。ここではその次の文が該当部分になる。Mrs. Stessin had died without regaining consciousness. (ステッシン先生の奥さんは意識を取り戻すことなく亡くなった。) というのがそのまま正解になる。なお、このニュースは「その夜遅くに2人の友達が伝えてくれた」ものなので、第4段落の空所④の内容である「ステッシン先生の奥さんが倒れた」ではないことにも注意。

(4) Leaving Aspen would have meant

S

V

leaving behind his most precious memories of Nancy.

V'

O'

O

下線部全体は A mean B (AはBを意味する；AはBということになる) という構造になっていて、AとBにそれぞれ動名詞が使われている。さらには would have meant という仮定法過去完了が使われていて、主語が条件になっているので、「アスペンを去ってしまえば…ということになっていただろう」というつながりになる。

○ leave ~ behind 「～を置き去りにする」ここでは leave behind ~ の語順になっている。

Ex. It's time to *leave* the past *behind*. (過去と区切りをつけるべき時だ。)

全訳

とうとうその日がやってきた。私はコロラド州アスペンへ向かうところだった。過年度にアスペン音楽学校に通っていた友人たちから素晴らしいという話を聞いていたので、今年の夏は素晴らしい学習経験になると確信していた。ジュリアード音楽院の有名教授、ハーバート・ステッシン先生の指導を受けられることを私は特に楽しみにしていた。

ステッシン先生のレッスンを何度か受けただけで、期待外れに終わることはないとわかった。ステッシン先生は非常に頭脳明晰でどんな細かな点も見逃さない。各フレーズのすべての切れ目に注目し、生徒が間違えた和音はすべて聴き取り、すべてのレッスンにユーモアのセンスを盛り込む。私が上級セミナーに備えてベートーベンのピアノソナタ作品31、第3番の練習をしていた時に、先生はレッスンの終わりにこう言ったのだ。「アーロン、あまりうまく弾かないでくれ。でないと、君に教えることが何もなくなるからね。」

私がソナタを演奏するのは初めてだったことを考えると、上級セミナーは非常にうまくいった。数日後、音楽学校の構内を蛇行して流れている川に架かっている橋を渡っていると、ステッシン先生の奥さんのナンシーを見かけた。彼女もアスペンで教えていたのだった。私が彼女に手を振ると、すれ違う時に彼女は何か言ったが、奔流の轟音にかき消されて聴き取れなかった。ちょっと立ち止まっているとナンシーは「先日あなたが弾いたベートーベンは素晴らしかったわ。」と再び言った。少し会話をしたが、私は彼女の思いやりのある言葉に感激した。

7月15日に、その日の最後のステッシン先生のレッスンを受けてから、食堂まで先生と歩いた。友人たちと座っていると、誰かが私に「ステッシン先生の奥さんが倒れたぞ！」と小声で言った。暑さのせいで倒れたのだと当然思った。ところが、救急車が呼ばれて彼女が近くの病院へ搬送されたため、状況がもっと深刻だとまもなくわかった。

その日の夜遅くに2人の友人が私とルームメイトに知らせてくれたことに、心の準備などできていたはずもなかった。ステッシン先生の奥さんは意識を取り戻すことなく亡くなったのだった。その夜、ルームメイトと私は眠れなかった。私たちは何時間もステッシン先生の奥さんの思い出を語り続けた。朝になるとディーン・ラスターが皆を集めて、その悲しい知らせを正式に発表した。

こんなに活動的で献身的な女性が亡くなったとはなかなか信じられず、ステッシン先生がこの大きな悲しみをどうして乗り越えられるだろうかと思った。手配がつき次第、きっとニューヨークへ戻るはずだと思った。

私はまったく勘違いをしていた。わずか数日後にはステッシン先生は練習室へ戻って教えていたのだ！

そこに留まるというステッシン先生の決意に最初は驚いたが、私はまもなく先生の考えがわかり始めた。先生と奥さんは長年アスペンで教えていて、教員や生徒たちとの強い連帯感を築いていた。さらに、先生は音楽への愛情と生徒たちとの係わり合いを通じて安らぎを得ているのだと私はわかった。⑧アスペンを離れてしまったら、ナンシーとの最も大切な思い出を置き去りにすることになったであろう。

夏の間ずっとステッシン先生の指導を受けながらモーツァルトのピアノ・コンチェルトを練習して、私は幸運にも仲道ピアノ協奏曲コンクールで第1位になることができた。しかし、それよりはるかに幸運なことに、私の演奏をステッシン先生の奥さんに捧げる機会が与えられた。アスペンでの最後の夜、コンサートの終わりに、友人や教員たちが舞台裏で私を迎えてくれた。ステッシン先生が近づいてくるのが見えると、先生は満面の笑みを浮かべていた。「非常に素晴らしい演奏だったよ！」と先生は言って、私を抱きしめてくれた。さらに先生は「それから、演奏を妻に捧げてくれてありがとう。君がいなくなると寂しくなるね。」と言った。そしてまた私は先生と抱き合った。

この夏は、本当にとっても素晴らしい学習経験になった。ステッシン先生は音楽とピアノに関して多くのことを教えてくれたが、結局のところ、彼から教わった最も大きなことは人生に関するものであった。

注

- ℓ. 1 ◇ Aspen 「アスペン」コロラド州中部にあるリゾート地で、スキー場として有名。
- ℓ. 5 ◇ Juilliard School of Music 「ジュリアード音楽院」ニューヨークにある名門私立大学。
- ℓ. 7 ◇ turn *n.* 「変わり目；切れ目」
- ℓ. 8 ◇ chord *n.* 「和音」
- ℓ. 12 ◇ wind *vi.* 「曲がりくねる；蛇行している」
- ℓ. 15 ◇ roar *n.* 「轟音」
- ℓ. 25 ◇ on end 「続けて」
- ℓ. 27 ◇ dedicated *adj.* 「献身的な」
◇ be gone 「亡くなる」
- ℓ. 34 ◇ faculty *n.* 「(集合的に) 教員」
- ℓ. 35 ◇ commitment *n.* 「係わり合い；献身」
- ℓ. 38 ◇ Nakamichi Piano Concerto competition 「仲道ピアノ協奏曲コンクール」浜松出身のピアニスト仲道郁代にちなんだコンクール。
- ℓ. 40 ◇ be greeted by ~ 「～に出迎えられる」
◇ backstage *adv.* 「舞台裏で」
- ℓ. 42 ◇ I'll miss you. 「あなたがいなくなると寂しく思うだろう。」

【2】

A.

全訳

人間社会は、ある特定の状況において個人が正しいと思うことは何でもただ行えばよいということを基盤にしても存続し得るとする考えは、空想的すぎて真面目に考えるに値しない。

そのような社会は、リードも言っているように、単に「秩序のない社会」であるというだけでなく、まさに社会そのものを否定することになるだろう。

B.

全訳

無線電信の起源は、無論、電気学一般の発達に深く根ざしている。今日我々が知っているような電気から人類が受ける多大なる恩恵は、世界の芸術と科学の非常に多くのものの場合と同様に、東洋の遠い昔の文明にその起源がある。

【3】

ポイント

この問題では、名詞構文の使い方と、助動詞のニュアンスに意識を向けてほしい。節を重ねる代わりに、名詞構文で簡潔に表現できるところがないか考えてみよう。また、「避けるべきである」や「…になりかねない」は、助動詞1つでその意味を表すことができる。

解答

Wise parents should not expect too much of their children since it often results in failure rather than in success. Excessive expectation is a burden on children. If they find they can't live up to it, they could make the wrong choices in life.

別解

Wise parents should avoid expecting too much of a child, because it often causes the reverse effect. Excessive expectations can be a burden on a child. The realization that he fails to live up to them can lead him to the wrong path.

解説

第1文は「賢明な親なら子供に期待しすぎることは避けるべきである」を主節とし、「それは良い結果より悪い結果を生むことが多いので」を理由を表す副詞節としてこれに続ければよい。あるいは「子供に期待しすぎることは良い結果より悪い結果を生むことが多い」を最初にもってきて、「だから賢明な親ならそれを避けるべきである」を後に続けることもできる。ここで注意したいのは「賢明な親なら」である。これを「もし彼らが賢明な親であるなら」のように条件節にすると文が複雑になりすぎるので、主節「～を避けるべきである」の主語を「賢明な親」にするのが望ましい。第2文は、日本語では1文になっているが、「過剰な期待は子供にとって負担である」は独立させて訳す方がすっきりする。「期待に応えられないことがわかると…」以下は if あるいは when を使った条件節に主節「彼らは道を誤ることにもなりかねない」を続ければよい。他の訳し方としては「期待に応えられないという認識」を名詞句で表して主語にし、その後「子供を誤った道に導くことになりかねない」と続ける方法もある。

- 「子供に期待しすぎる」 expect too much of [from] a child の動詞表現の他に、名詞表現として excessive [overly high] expectation(s) on a child などがある。
- 「良い結果より悪い結果を生む」「良い〔悪い〕結果を生む」は produce [bear ; get] a good [bad] result。「～より…」は '… rather than ～' を使って produce a bad result rather than a good one のようにするとよい。他には result in success, result in failure

という表現を利用して result in failure rather than in success のようにもできる。あるいは「逆の結果を生む」として, cause the reverse effect, bring about the adverse effect なども考えられよう。

- 「賢明な親なら…するべきである」解説の冒頭でも述べたように, ここを条件節にすると文がわかりにくくなるので, 「賢明な親」を主語にして wise parents should …と続けるとうよい。
- 「避ける」avoid …ing, refrain from …ing など。もっと簡単に should not …としてもよい。
- 「子供にとっての負担」a burden on [to ; for] a child
- 「期待に応えられないことがわかる」「わかる」は「気づく」のニュアンス。find や realize を使うとうよい。「(期待に) 応える」は live [come] up to ~ が適切だが, meet ~ (~を満たす) でも可。なお, 否定の意味は fail to … (…しない ; …することができない) でも表すことができる。またここは「~に応えられないという認識」を主語にして表すことも可能。その場合, the realization that …の形にする。
- 「道を誤る」make the wrong choices ; take the wrong path のようにすればよい。「…という認識」を主語にするのであれば lead him into (to) the wrong way [path], mislead him のようにする。
- 「…しかねない」「可能性」を表す助動詞 can [could] や may [might] で表せる。

【4】

ポイント

設問で読むべき課題文が与えられている場合は, その内容に対して自分がどのような意見なのかを書けばよいが, この問題のように課題文がない場合は, 自分で状況を設定し, それを具体的に説明しつつ自分の意見を述べなければならない。状況設定に語数を割きすぎると, 意見が十分述べられないということになってしまいかねないので, 注意すること。

解答例

I feel very angry at the fact that there are so many politicians in Japan who only think of increasing their private wealth without seriously thinking of the nation. Their main concern is not the welfare of the people in general, but their own interests, and so they readily take bribes from companies or waste taxpayers' money on themselves. (59 語)

別解

When I get on the train, I often see young people sitting on priority seats, even if an elderly person is standing in front of them. I also see young people sitting down in the aisles on the train, which inconveniences the other passengers. On these occasions, I feel angry at their lack of consideration and their selfishness. (58 語)

解説

まず, どんなことに「怒りを覚えている」かを考えるわけだが, 指定された語数が 60 語程度と少ないので, あまり詳細には書けないことを頭に入れた上で考える。書く内容は, 社会的なことでも個人的なことでも構わないが, 身近な話題の方が書きやすいだろう。

社会的な話題の例としては、①「日本には、国民のことを真剣に考えず、自分の私腹を肥やすことだけに夢中になっている政治家が多いことが腹立たしい。彼らの主たる関心は一般の人々の幸せではなく、自分自身の利益なのだ」、②「子供を狙った凶悪な傷害・殺人事件や、高齢者を狙った詐欺事件など、いわゆる弱者を標的とした、許しがたい犯罪が横行していることに腹が立っている」といったことが考えられる。

一方、日常生活における個人的な話題としては、③「最近、電車に乗ると、年配の方がすぐ側に立っていても平気で優先席に座っている若者を見ることが多い。高齢者や障がい者、妊娠中の方などに対する彼らの思いやりのなさ、自分さえよければいいという身勝手さには大きな怒りを覚えている」、④「最近、携帯電話の普及により、どこにいても人と連絡を取りやすくなり、その便利さが当たり前となっている。しかし、電車の中で携帯電話を使って大きな声で話されるとうるさいし、他の人に与える迷惑を考えない身勝手さに腹が立っている」、⑤「歩きながらタバコを吸い、吸殻を道に投げ捨てる人が多いのに腹が立っている。彼らは自分の公德心の欠如を他の人に教えているようなものだ」などが考えられる。

どのようなテーマを選ぶにせよ、自分が最近どのようなことに怒りを覚えているのかということと、その理由、詳細や具体例を簡潔に述べることになる。その際「解答例」のように、「怒りを覚えていること」→「具体例」という構成にしてもよいし、「別解」のように「具体例」→「怒りを覚えていること」としてもよいだろう。また、このようなテーマでは、自分の怒りにまかせて感情論に走ってしまわないように注意すること。これは、あくまでも英語力を見るための問題である。

ここでは上に挙げた例の①、③をそれぞれ「解答例」「別解」とし、その中で使われる語句・表現を挙げておく。

- 「～に怒りを覚えている」「怒った」は angry が最も一般的な語。furious は「ひどく腹を立てている」というニュアンス。「～(=事;物)に怒っている」は be angry at [about] ～, 「～(=人)に怒っている」は be angry with ～ が普通。

Ex. I'm angry *about* the situation.

I'm angry *with* you.

- 「国民のことを真剣に考えない」do not think seriously of (the welfare of) the nation [the Japanese people]; without seriously considering (the welfare of) the nation [the Japanese people]
- 「自分の私腹を肥やす」increase one's private property [wealth]; enrich oneself; line one's own pocket(s)
- 「…することに夢中になる; …することしか考えない」be absorbed [occupied; lost] in …ing; only think of …ing
- 「～に座っている若者を見るが多い」we often see young people sitting [seated] on ～, あるいは「～に座っている若者を見て腹が立っている」と考えて、I feel angry at the sight of the young people sitting [seated] on ～と表現することもできる。
- 「優先席」priority seatings [seats]。後ろに for special assistance passengers などをつけたり、seats reserved for ～のようにしたりしてもよいだろう。
- 「すぐ側〔前〕に高齢者が立っていても」even though an elderly person is standing

right in front of them ; even if they are aware of an elderly person standing near them.
even if [though] は ‘譲歩’ の表現。

- 「～に不便をかける」 inconvenience ～ ; trouble ～
- 「高齢者に対する彼らの思いやりのなさ」 their lack of consideration [kindness ; thoughtfulness ; sympathy] for the elderly

【5】

A.

解答

- (1) If you had left home at seven, you could have caught the train.
- (2) If Bill had gone to college when he finished high school, he would be a senior now.

B.

解答

- (1) d (2) d (3) c (4) d (5) d

解説

- (1) 「医者には彼女にあと2,3日は寝ていなさいと言った。」
‘勧告・提案・要求・決定’などを表す動詞に続く that 節においては仮定法現在が用いられる。advise, ask, decide, demand, insist, propose, recommend, request, require, suggest などがその動詞に該当する。
- (2) 「もし仮に太陽が消えてしまうことがあれば、すべての生命体はすぐに死んでしまうだろう。」
○ If S were to … 「仮にSが…するとしたら、仮にSが…するとしても」
まったく現実不可能な仮定から、現実の可能性のある仮定までさまざまな段階の仮定を表す。帰結節は仮定法過去になる。
- (3) 「万一ミックが電話してきたら、いつ来てもいいと伝えてください。」
Should Mick call me, = If Mick should call me,
○ If S should … 「もしも…したら」
話し手が可能性が少ないと思っている仮定を表し、帰結節には仮定法のみならず直説法や命令法がくこともある。
- (4) 「第二次世界大戦が2年早く終わっていたら、どれほど多くの人命が救われていただろうか。」
Had World War II ended ~ = If World War II had ended ~
仮定法過去完了になることに注意。
- (5) 「ケンには手術を受ける予定である。そうしなければ、彼の健康状態はますます悪くなるだろう。」
otherwise は前の内容を受けて「そうでなければ」という、仮定法の条件の意味を持つ。as if S V (まるでSがVかのように) では文意が通らない。providing[provided] that S Vは「仮にSがVなら」という条件を表すが、provide that の形はない。

【6】

解答

- (1) (No matter what country he visited,) Harry would notice particulars that we ordinary people would miss(.)
- (2) It isn't as if these books were written in English(.)
- (3) (If) only I could turn back the hands of time(.)
- (4) Kelly suggested that this issue be raised at the next meeting(.)
- (5) (If) it weren't for the climate, I'd like it here (very much.)
- (6) (If) I had known she would be there, I would not have gone to (the party.)
- (7) (Don't ever say) it might have been better for everyone else if you had not been (here.)
- (8) Should she be reelected, she will have her term as prime minister extended another (three years.)

解説

- (1) 初めの would は直説法で‘過去の習慣’を表す。次の would は仮定法で条件が we ordinary people に含まれていると考えればよい。
- (2) ○ It isn't as if S V 「SがVというわけでもあるまい」
S Vの部分は仮定法のみならず直説法で書かれることも多い。
Ex. It isn't *as if we are rich*. (私たちが金持ちというわけでもあるまいし。)
- (3) If only ~ = I wish ~である。hand は「時計の針」のこと。
e.g. minute hand (分針)
- (4) ‘提案・要求’の内容を仮定法現在で記す形である。
- (5) 直訳は「この天気がなければここを大変気に入るのであろうに。」となる。
- (6) she would の would は直説法であり‘過去からの未来’を表す一方、I would の would は仮定法の帰結を示す。
- (7) it を主語にした仮定法過去完了にする。
- (8) Should she be reelected, ~ = If she should be reelected, ~。should を用いた条件節においては直説法(や命令法)の帰結も来ることに注意。

【7】

ポイント

仮定法においては条件部分がif節で書かれるとは限らない。if節に代わる語句を見つけ出して、if節との互換関係を確認していこう。

解答・解説

- (1) Should you
「万一宝くじに当たれば、高級マンションを買えるかもしれません。」
条件が関係詞節に含まれる場合。
- (2) If, were to, used
「万一核兵器が使用されれば、広大で長期に渡る破壊的な損害を与えるだろう。」

条件が主語にある場合。

- (3) If we'd arrived [come]
「もしもう少し早く着いていたら、ディズニーのキャラクターたちに会えたのに。」
条件が A little earlier に含まれている。
- (4) to hear of
「万が一彼が私たちの結婚を聞いたら、彼は大変ショックを受けるだろう。」
条件が to hear of our marriage に含まれている。
- (5) hadn't carried
「もし私が約束を直ちに果たしていなかったら、成功への大きなチャンスを失っていただろう。」
条件が otherwise 「さもなくば、もしそうでなかったら」に含まれている。
○ pledge 「誓い；約束」

【8】

解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第2版』の参照番号を示す。

A.

- (1) (A) devoted (B) to ◆ 385
○ devote A to B 「BにAを捧げる」
○ devote *oneself* to ~ [be devoted to ~] 「～に専念する」 ◆ 386
- (2) (A) adapted (B) to ◆ 389
○ adapt [accustom ; adjust ; accommodate] A to B 「BにAを順応させる」
cf. adapt *oneself* to ~ 「～に慣れる」(← 自分を～に慣れさせる)
- (3) (A) have (B) to ◆ 394
○ have A to *oneself* 「Aを独占する」
- (4) (A) provide (B) with ◆ 395
○ provide A with B 「AにBを与える」
- (5) (A) associate (B) with ◆ 405
○ associate A with B 「AをBに結び付けて考える」
- (6) (A) blame (B) for ◆ 407
○ blame A for B 「AをBのことで責める」
- (7) (A) excuse (B) for ◆ 411
○ excuse A for B 「BについてAを許す」
- (8) (A) took (B) for ◆ 414
○ take A for B ①「AをBと間違える」(= mistake A for B)
②「AをBとみなす」
- (9) (A) prevented (B) from ◆ 416
○ prevent A from ...ing 「Aが...するのを妨げる」
= keep [stop ; hinder ; inhibit] A from ...ing ◆ 417, ◆ 418

- (10) (A) prohibited (B) from ◆ 422
○ prohibit A from …ing 「Aが…するのを禁止する」
- (11) (A) tell (B) from ◆ 423
○ tell A from B 「AとBを区別する」
- (12) (A) derived (B) from ◆ 426
○ be derived from A 「Aに由来する」
- (13) (A) regarded (B) as ◆ 428
○ regard A as B 「AをBとみなす」 = look on [think of] A as B ◆ 429, ◆ 430
- (14) (A) look (B) as ◆ 429
○ (13) 解説参照。
- (15) (A) referred (B) to ◆ 431
○ refer to A as B 「AをBと言う〔呼ぶ〕」

B.

- (1) Keep [Bear], mind ◆ 434
○ keep [bear] A in mind 「Aを記憶に留めておく」 (= remember A)
- (2) hold, tongue ◆ 435
○ hold *one's* tongue 「黙る」
- (3) have, idea ◆ 440
○ have no idea 「わからない」 (= don't know)
- (4) keep, hours ◆ 441
○ keep early [good] hours 「(毎日) 早寝をする；(毎日) 早起きする」
※ 「(毎日) 早寝早起きする」の意味で現在用いられるのはまれ。
- (5) lose ; temper ◆ 445
○ lose *one's* temper 「腹を立てる」